

|       |       |     |    |      |    |
|-------|-------|-----|----|------|----|
| 授業科目名 | 刑事弁護論 | 期別  | 後期 | 授業形態 | 講義 |
| 担当者名  | 木村 道也 | 単位数 | 2  | 開講年次 | 2  |

#### 授業科目の概要

自らが刑事弁護人となった視点をもって、教員が体験した事件などを素材にした具体的事案への対応を検討することによって、弁護人の在り方を体感し、理解を深める。

#### 到達目標

- ① 刑事手続における刑事弁護人の役割を深く理解する。
- ② 弁護方針の決定のため、調査等が必要な事項を、事案に即して把握することができるようになる。
- ③ 被疑者や参考人の取調べについて、弁護人としてアドバイスや関係機関への対応ができるようになる。
- ④ 身体拘束からの解放手続について、弁護人として対応することができる。
- ⑤ 弁護人として必要な調査や証拠収集方法について理解する。
- ⑥ 公判弁護方針を決定できるようにし、公判前整理手続や公判における弁護人としての対処方法を理解する。

#### 成績評価基準および方法

中テスト(50%)および授業中の起案、授業中への積極性、教員からの質問に対する回答等の授業中の取り組み状況(50%)を評価対象とする。弁護人に求められる活動への理解度およびこれに必要な思考力、表現力をみる。

#### テキストおよび参考文献

テキストは使用しないが、参考文献として、①岡慎一・神山啓史『刑事弁護の基礎知識 第2版』（有斐閣、2018。ISBN 978-4-641-13936-7）、②季刊刑事弁護別冊『刑事弁護ビギナーズ ver.2.1』（現代人文社、2019。ISBN 978-4-877-98720-6）を推薦する。

#### 履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習）

教員が体験した事件等を素材に、具体的事例を用いて弁護人の仕事を体感できるよう計画している。主体的な参加を望む。事前学習が特に必要な場合はアサインメントで指示する（あらかじめ課題ないし事例を配布し、十分な検討をしていることを前提に実施する回もある）。事後学習として、講義で扱った内容について、利用している刑法・刑事訴訟法の基本書を確認すること。事前学習2時間、事後学習2時間程度を想定している。

#### 授業計画および内容等

|     |           |                                                |
|-----|-----------|------------------------------------------------|
| 第1回 | 弁護人の役割・使命 | 弁護人の基本的役割・任務<br>弁護活動の限界                        |
| 第2回 | 刑事手続概観    | 刑事手続を弁護人の立場から概観する<br>捜査段階、公判段階における弁護活動の目標設定を学ぶ |
| 第3回 | 刑事事実認定概観  | 刑事事実認定の基本を弁護人の立場から概観する                         |
| 第4回 | ケースセオリー   | ケースセオリーの意義、設定方法について学ぶ                          |

|        |               |                                            |
|--------|---------------|--------------------------------------------|
| 第 5 回  | 量刑論の基礎        | 量刑判断の枠組み<br>量刑事件におけるケースセオリー                |
| 第 6 回  | 接見            | 初回接見、取調に対するアドバイスについて学ぶ                     |
| 第 7 回  | 事例検討(1)       | 身体拘束を解くための弁護活動、不起訴処分を目指す弁護活動が問題となる事例       |
| 第 8 回  | 証拠収集          | 公判前整理手続、証拠開示、弁護人の証拠収集について学ぶ                |
| 第 9 回  | 事例検討(2)       | ケースセオリー、証拠、ストーリーの関係を整理し、冒頭陳述を作成する方法について学ぶ  |
| 第10回   | 証拠調べ・<br>証人尋問 | 証人尋問の意義、進行、異議、主尋問、反対尋問の手法について確認する          |
| 第11回   | 事例検討(3)       | 証拠調べにおいて弁護人としてとるべき対応を、事例に基づき検討する           |
| 第12回   | 事例検討(4)       | 具体的な事例（事実のレベルで問題があるもの）を題材に弁護人としての対応を考える    |
| 第13回   | 事例検討(5)       | 具体的な事例（法律のレベルで問題があるもの）を題材に弁護人としての対応を考える    |
| 第14回   | 事例検討(6)       | 具体的な事例（情状のレベルで問題があるもの）を題材に弁護人としての対応を考える    |
| 第15回   | 筆記試験          | 刑事弁護人としていかなる対応をすべきかについて、具体的な事例に基づいた筆記試験を行う |
| 関連 URL |               |                                            |
|        |               |                                            |
| 備考欄    |               |                                            |
|        |               |                                            |